



安心と信頼、良質なてんかん・神経の包括医療



静岡てんかん・神経医療センター情報誌

令和4年 秋 第70号



あかり

A K A R I

認知症について	1
市民公開講座「てんかんって何?」	3
静岡県立袋井特別支援学校の校内研修 「てんかん発作の対応と実演」	4
A6病棟の就労準備支援	5
季節の野菜や花を通じた病棟活動(A5病棟)	6
外来再診の診療体制/医療連携室	7
はじめて当院を受診される方へ/当院へのアクセス/本	8



認知症について

統括診療部長 小尾 智一

「家族、本人をよく知る人、医療関係者が、以前よりも明らかに認知機能が低下した」と懸念することで気づかれ、加えて「支払いができない、服薬管理ができない」などが明らかになると認知症が強く疑われます。

最近の、1年間あたりの新規認知症患者数の予測をみると、欧州と米国の認知症発病率は、過去25年間以上にわたり、10年間あたり13%減少する傾向があるとされています。この理由は定かではないのですが、糖尿病や高血圧、肥満、喫煙と

いった生活習慣病が認知症のリスクを高めることがわかっており、人々の健康意識が高まったことが影響しているのではないかと推定されています。しかし、残念ながら日本を含むアジアでは認知症の発病率がより高くなっています。

認知症の社会的費用も大きな問題です。国際医療福祉大学の池田俊也先生らの研究(*)によれば、2018年のアルツハイマー型認知症の医療と介護のコストは年間14.4兆円です。そのうち家族等が無償で実施するケアにかかる費用、つまりインフォー

マルコストが7.4兆円とされています。これは、アルツハイマー型認知症患者1人当たり205万円に相当します。

認知症の原因の2/3はアルツハイマー型認知症で最も多く、血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭葉型認知症、その他と続きます。

認知症には中核症状と周辺症状があります。中核症状とはいわゆる「物忘れ」である記憶障害、段取り障害、迷子、名前が出てこない、社会参加しなくなるなどがあります。周辺症状には、物盗られ妄想、イライラ、意欲低下、不安、幻覚、徘徊などがあります。このうち、物盗られ妄想は自分が置き忘れたのに盗られたと思込む妄想で、家族関係がぎくしゃくするので注意が必要です。また、一番近い存在の人に限って妄想の対象にされやすいということを知っておく必要があります。

アルツハイマー型認知症は記憶障害で発症することが多いことが知られています。原因は、脳内にアミロイドβ蛋白が蓄積することだとするアミロイド仮説があります。抗認知症薬で進行抑制を図ります。現在、アミロイドを排除する治療が行われています。

血管性認知症は、脳卒中を起こしたあとに出現します。注意と集中力低下と意欲低下が主症状です。脳卒中の再発があると認知症が進行するので、再発予防が重要です。

レビー小体型認知症は認知機能の大きな変動、幻視、夢のままに行動するレム睡眠行動障害、動作が鈍いなどのパーキンソン症状が特徴です。抗認知症薬をはじめとした多種類のお薬で症状を緩和します。原因は脳内にシヌクレインという蛋白が蓄積することによります。

前頭側頭葉型認知症は、万引などをしてしまう

行動障害型、言葉の意味が分からなくなる意味性認知症、すらすら話せない進行性非流暢性失語があります。原因は色々な異常蛋白が脳に蓄積することによります。この認知症に対するお薬は開発途中ですので、対応方法の工夫や症状に合わせたお薬によって症状を緩和します。

認知症の防御因子としては運動、知的活動、教育、生活習慣病のコントロールが重要とされています。したがって、不規則で消極的な生活を続けたり、生活習慣病を放置すると認知症のリスクが増すこととなりますので注意が必要です。

認知症は現在のところ有効な治療法がないので、症状を緩和するために介護が重要になってきます。介護の中でも対応方法は皆さんが悩むところです。特に記憶障害の対応にはある程度の忍耐が必要です。忘れていたら答えを教えてあげましょう。何度も同じことを尋ねてきたらその都度答えるのが良いのですが疲れてしまうので、話題を変えたり場面転回して同じ話から離れてもらいましょう。大事なことはホワイトボードに書いてみる、音声で時間を知らせる時計を使う、置き場所にはその名前を書いて貼る、などがあります。

最後に、認知症の介護はやりがいがあるのですがとても大変です。介護者の健康が損なわれないように皆でコミュニケーションをとり、助け合う必要があります。

* Journal of Alzheimer's Disease 81 (2021) 309-319 309 DOI 10.3233/JAD-210075



参加無料 先着 30 名 事前申込制

静岡県てんかん地域診療体制整備事業 市民公開講座

申込締切
11月18日(金)

てんかんって何？

てんかんは100人に1人がかかると言われており、身近な病気です。
てんかんという病気をわかりやすくお話し、実演を通して介助方法を説明します。

2022年11月27日(日) 13:30～16:30(13:00開場)

会場

アクトシティ浜松 研修交流センター 51研修交流室
(JR浜松駅下車、北口より徒歩約10分)

講演

第1部 てんかんとはどのような病気か

静岡てんかん・神経医療センター 小児科医長 山口 解冬

第2部 てんかん発作の介助の実演

静岡てんかん・神経医療センター 院内認定てんかん看護師

田尻 浩/田村 映理華/細川 亜紀

※講演終了後に個別相談会を予定しています。

参加申込

- ・先着順のため事前申込みが必要です。(静岡県外の方はご参加頂けません。)
- ・当院ホームページに申込書を掲載しますので、そちらをご利用下さい。
- ・新型コロナウイルス感染症の流行状況等により、やむを得ず急遽中止となる場合があることをご了承下さい。

参加希望の方へのお願い

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、参加者の方には、当日の会場でのマスクの着用・体温測定・手指消毒・体調チェック等の感染対策を徹底させて頂きますので、ご協力をよろしくお願い致します。
- ・受講当日、下記①～⑤の一つにでも該当する方はご参加頂けませんので予め会場をご遠慮下さい
 - ① 37.5℃以上の発熱など感冒様症状(咳・鼻汁・鼻閉)ある。
 - ② 呼吸困難、全身倦怠感、咽頭痛、味覚・嗅覚障害、目の痛み・充血、頭痛、関節・筋肉痛、下痢、嘔吐・嘔気症状がみられる。
 - ③ 同居家族や身近な知人に新型コロナウイルス感染症の感染が疑われている。
 - ④ 過去14日間以内に新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触がある。
 - ⑤ 過去14日間以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国・地域への訪問歴及び当該在住者との濃厚接触がある

【お問い合わせ】

【受付窓口】静岡てんかん・神経医療センター医事課 TEL・054-245-5446

共催：静岡てんかん・神経医療センター(静岡県てんかん診療拠点機関) 公益社団法人日本てんかん協会静岡県支部

静岡県立袋井特別支援学校の校内研修 「てんかん発作の対応と実演」

A6 病棟 小島 早織

令和4年8月1日に静岡県立袋井特別支援学校の校内研修において「てんかん発作の対応と実演」の講



師を担う貴重な経験をさせていただきました。袋井特別支援学校では、てんかんがあるお子様も通われており、てんかん発作を観察したことがある、または身近である学校教員133名の皆様にご参加いただきました。教員の皆様には事前アンケートを配布し、ご質問やご要望などの回答を基に、講義資料を作成致しました。事前アンケートからは、てんかん発作に対し、恐怖や苦手意識をお持ちになっている方が多いことや、てんかん発作の適切な対応・観察について学ばれたいというご意見が多く聞かれていました。また、8月開催ということもあり、プールや水中での発作対応の仕方、抗てんかん薬の種類と作用・副作用、てんかんの種類について学びたい等々、ご要望も多く聞かれていました。



研修会では、先ず山口解冬医師より、てんかんとはどのような疾患であるか、てんかんの歴史やてんかん分類、診断など専門性の高い内容の説明が行われました。また、様々な発作の特徴について動画を交えた詳細な説明があり、参加者の皆様がメモを取

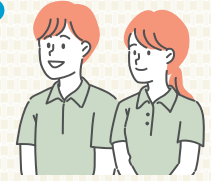
られ、熱心にお聞きになられている姿が印象的でした。その後は、院内認定てんかん看護師の細川亜紀看護師と共に、当院で行っている発作や薬の副作用における受傷対策や、てんかん発作が起こった際の注意点、観察点など介助者の視点からお話させていただき、発作対応について実演させていただきました。私は以前にも、支援学校や市民講座の講師を務めさせていただいた経験がございます。その際に講義の冒頭で、てんかん発作を見たことがあるかお尋ねしたところ、参加者の半数以上はてんかん発作を見たことがないとお答えいただいております。今回も同様の質問をしたところ、教員の皆様から「発作を実際に目にしたことがある、観察したことがある」との多くの回答がありました。在学しているお子様の保護者様にとって、1日の多くの時間を過ごす学校で、てんかん発作が起こることや発作の対応についての不安は大きいと存じます。しかし、その対応に慣れている先生方が多くいらっしゃる学校があるということに驚きと同時に嬉しくも感じました。

私は院内認定てんかん看護師として、今後もより多くの皆様に、てんかんを身近に感じ、様々な症状や発作があることへの理解、適切なてんかん発作の対応をお伝えし、てんかんがある方々が安心安全と思える環境が整えられるよう普及活動に努めてまいります。



A6 病棟の就労準備支援

A6 病棟看護師 伊藤 さやか



今年度からA6病棟は、患者様の退院後「働きたい!」「仕事について困っている」など、就



労に関する困難な思いに応えるため、「就労準備支援」という新たな支援をスタートしました。入院中だからこそ、静岡におけるてんかんの拠点機関の当院だからこそできる退院後の就労へ向けた支援を、多職種で繰り返し検討を重ねてプログラムを確立しました。患者様とそのご家族の希望・意思決定に沿った個別性の高い支援ができるよう、医師・看護師・作業療法士・理学療法士・ソーシャルワーカーの多職種で支援する体制になっています。

就労準備支援の内容は、まず5日間の就労に関する様々な検査・面談を実施し、その結果をもとに、患者様自身に退院後の就労に関する進路を決定していただきます。その後、患者様のご希望や検査結果に沿って、治療と並行しながら多職種で連携して退院後の生活・就労へ向けて個別性のある支援を行っていきます。

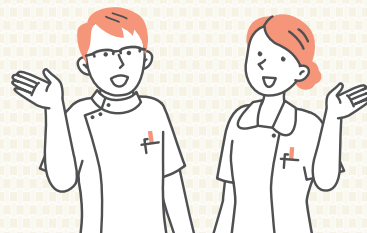
病棟看護師は、患者様のニーズを早期に把握



し就労準備支援へ繋がられるように努めています。また、退院後、安定した生活と就労をするうえで必要な能力を身につけるための援助を病棟で実施していきます。内容としては、職業準備性を高めていくために、疾患教育(学習プログラム・MOSES)・生活指導・服薬管理指導・対人能力訓練・基本的労働習慣指導・心理的サポートなど患者様の状態に合わせて実施していきます。



当病棟では、就労準備支援についての知識や関心を深めるために、看護師対象に医師による勉強会の実施や外部研修会参加の機会を提供しています。就労に関する知識が深まり、支援に対して意欲的になったという意見が聞かれています。患者様にとって「就労」とは、「収入を得るばかりでなく、社会との繋がりを構築したり自己実現をはかる生活や人生を豊かにするための重要な取り組み」だと考えています。そのお手伝いができるよう、私たち看護師は患者様の思いに寄り添い、日々の関わりを大切にしながら、退院後の生活を見据えて看護を提供していきたいと思っています。



A5病棟 季節の野菜や花を通した 病棟活動

COVID-19の感染拡大に伴い、病棟で行っていた共同作業や行事参加の病棟活動が縮小されました。病棟活動は長期入院の変化が少ない生活を送る患者様や、付き添っている家族にとって、楽しみや気分転換になっていました。

楽しみや気分転換が乏しい中で、何か出来ないか考え、畑で季節の野菜や花を作り始めました。作業はスタッフが行っていますが、種蒔き・収穫・草取りなど



一部患者様に参加して頂いています。収穫した野菜を病棟に展示したり、写真で掲示して情報を発信しています。また年に2回ですが、収穫した野菜を栄養科で調理していただき、患者様に提供しています。患者様から「トマト赤くなってきたよ」「畑を見に行きたい」「散歩中に畑の前のベンチで休憩しています」など好評です。

小さな畑ですが、今後も活動を続けていきたいと考えています。



診 療 体 制

てんかん科		午前の診療時間は8:30~12:00 午後の診療時間は13:00~16:30									
診察室	曜日	初 診					再 診				
		月	火	水	木	金	月	火	水	木	金
第1診察室								山 崎	川 口	山 崎	白 井
第2診察室							徳 本		荒 木		
第3診察室			今井 克美		白井 直敬	今井 克美	今 井				
第4診察室									日 吉	美 根	川 口
第5診察室								福 岡		寺田清 <small>※第4週はなし</small>	
第6診察室							芳 村			芳 村	松 平
第7診察室				山口 解冬	荒木 保清			荒 木			山 口
第8診察室	高橋 幸利				高橋 幸利			西 田	高 橋		近 藤
第9診察室			川口 典彦	芳村 勝城			重 松			大 谷	大 谷
第12診察室	西田 拓司			松平 敬史		山崎 悦子					

脳神経内科		初 診				
診察室	曜日	月	火	水	木	金
第10診察室	午前	高嶋	小尾	小尾		小尾
	午後	小尾 智一	小尾 智一	小尾 智一		小尾 智一
第11診察室	午前	杉浦	杉浦	寺田		
	午後	寺田 達弘		寺田 達弘		尾内 康臣 <small>第4週</small>
第13診察室	午前			高嶋		

特殊外来		
認知症疾患医療センター	月・水	小尾 智一
遺伝カウンセリング外来	適宜	高橋 幸利 小尾 智一

再来診療は予約制です。予約が出来ない場合は午前中にお越しください。

地域医療連携室のご案内

医療機関間のコミュニケーションを円滑に行なうために、地域医療連携室を設置しています。ご利用ください。(平日)

T E L ■ 054 - 246 - 4580

F A X ■ 054 - 246 - 4607

E-mail ■ 307-renkei@mail.hosp.go.jp

当院では、脳波、筋電図、誘発電位、脳磁図、終夜ポリグラフ、CT、MRI、SPECTなどの検査が可能です。共同利用も可能です。上記、地域医療連携室にお問い合わせください。

広報誌編集委員会

編集人 ■

西田 拓司 青木 裕子 石橋 綾子
 矢嶋 隆宏 佐藤 恩 葛城 裕幸
 田中佐代子 高橋 輝 長田 英喜
 加治 豪廣

発行 ■ 令和4年10月20日

国立病院機構

静岡てんかん・神経医療センター

〒420-8688 静岡市葵区漆山886

T E L ■ 054 - 245 - 5446

F A X ■ 054 - 247 - 9781

U R L ■ <https://shizuokamind.hosp.go.jp>

E-mail ■ 307-shizuokamind@mail.hosp.go.jp

はじめて当院を受診される方へ

◆診察は予約制になっています◆

1 受診のための手続きは…

予約は、本人・家族は予約センター(054-246-1065)、病院からは地域医療連携室(054-246-4580)
 その際、ご本人の氏名・性別・生年月日・住所・電話・保護者氏名をお尋ねいたします。電話をいただきますと、その場で受診日を決め、折り返し当院からくわしい書類をお送りいたします。

2 緊急を要する時は…

受診日は病状に応じてできるだけ対応いたしますので、緊急を要する時はその旨をご連絡ください。

3 紹介状について

現在すでに病院へかかっておられる方は、主治医の紹介状があることが望ましいですが、なくても結構です。紹介状がない場合は別途費用(2,750円)がかかりますので、ご了解ください。病院からの資料もあれば望ましいですが、なくても結構です。

4 セカンドオピニオンについて

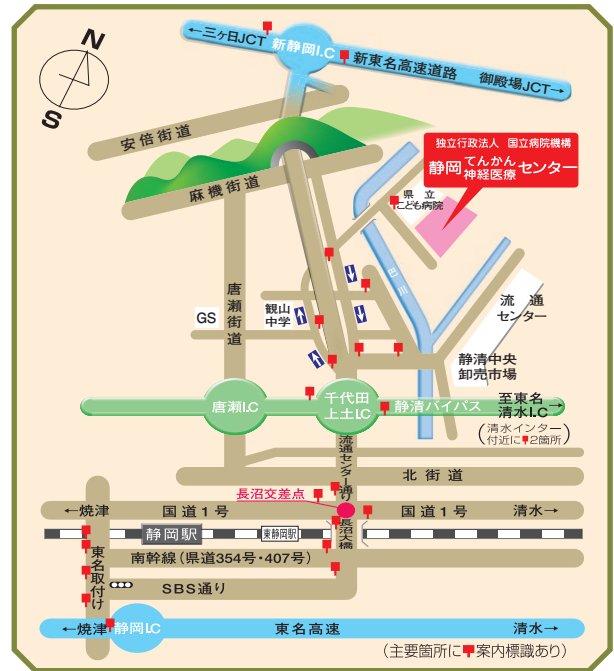
セカンドオピニオンもお引き受けいたします。

5 静岡市認知症疾患医療センターについて

認知症の受診やご相談は専門医療相談 ☎054-246-4608

当院へのアクセス access

バスをご利用の場合	● JR静岡駅前、北口バスターミナル5番線より静岡鉄道バスにて、こども病院線「67 こども病院・神経医療センター」行に乗車、終点の「静岡神経医療センター」で下車。全所要時間は約30分。片道料金は大人370円、小児190円。
タクシーをご利用の場合	● JR静岡駅前(北口)より乗車。所要時間は約20分。料金は2,500円程度。
お車の場合	東京方面から
	名古屋方面から
東京方面から	● 東名高速清水インターより、静清バイパスを静岡方面に向かい、千代田・上土出口から流通センター通りを北へ約3分。所要約20分。 ● 御殿場JCTで新東名高速道路へ乗換。新静岡ICより、案内板に従い直進。所要時間約7分。
名古屋方面から	● 東名高速静岡インターより、国道1号線を清水方面に向かい、長沼交差点を左折、流通センター通りを北へ約10分。所要約30分。 ● 新東名高速道路・新静岡ICより、案内板に従い直進。所要時間約7分。



本

●抗てんかん薬ポケットブック(改訂第6版)

【日本てんかん協会、2016年】

禁忌、重大な副作用、重大な副作用疾患別症状、体内動態と主な副作用、相互作用、抗てんかん薬プロフィール、新規抗てんかん薬の開発状況、Q & A、識別コード(錠剤のみ)を掲載。

●エキスパートが語る てんかん診療実践ガイド

【日本医事新報社、2022年7月】

静岡てんかん・神経医療センターの専門医が中心となり、てんかんの診断・分類から薬物治療、社会生活のアドバイスまでを体系的に解説。
 ・てんかん発作と間違いやすい症状・疾患との鑑別を丁寧に取り上げ、誤診を防ぐための知識をふんだんに紹介。
 ・薬物治療についても、併存症や副作用、減薬など、判断に迷うことの多い疑問にやさしく回答しました。

●新 小児てんかん診療マニュアル 【診断と治療社、2019年】

多くの読者に支えられ改訂を重ねてきた本書。今回、2017年の新しいILAE てんかん発作分類提案に基づいた小児てんかん診療を可能とするために、ここに「新版」として生まれ変わりました。新規抗てんかん薬だけでなく、新分類で重視される病因別の特徴や心因性非てんかん発作、遺伝子検査、MRSといった新しい画像検査など、てんかん学の進歩をたくさん詰め込みました。

●プライマリ・ケアのための 新規抗てんかん薬マスターブック(改訂第2版)

【診断と治療社、2017年】

「副作用のない治療によるてんかん発作の完全抑制」は、治療を担当する医師および患者さんとそのご家族にとって、切実な願いです。
 2006年以降、「新規抗てんかん薬」とよばれる新しい抗てんかん薬が順次発売され、今後しばらく、新規抗てんかん薬の発売が続くと予想されています。本書は、これらの新規抗てんかん薬の使い方をわかりやすく解説したものです。小児と成人に分けて、エビデンスやガイドラインに基づいて、当院のスタッフがわかりやすく執筆しています。当院高橋幸利先生の編集です。

てんかん情報センターのご案内

てんかんに関するさまざまな情報を集積したセンターが外来棟1階にあります。どうぞご利用ください。次の活動を行っています。

- ① てんかんに関する書籍・雑誌・ビデオなどの閲覧・貸し出し(自己学習)
- ② ホームページによる情報提供 <https://shizuokamind.hosp.go.jp/epilepsy-info/>
- ③ てんかん協会との連携
- ④ 医療などの相談(予定)